



いづみ

No.70

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 40



《 男の顔 》

鈴木 吾郎

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 40 作者の言葉

2019「鈴木吾郎と新鋭作家展」に出品するために作った新作です。行きつけのレストランの主人で以前から作りたいと思っていたモデルです。こんもりあった髪の毛を削って、削って最後にステッチで仕上げました。久しぶりに納得した作品です。

(1939年、月形で幼少期。個展34回。小樽市在住)

タイトル：	《 男の顔 》
制作年：	2019年
素材：	テラコッタ
サイズ：	W12×H34×D25cm
所在地：	作者蔵

連載 宮の森の四季 40

本郷新記念札幌彫刻美術館

花 束

業務係 山下 秀幸

2020年東京オリンピックのマラソンと競歩の札幌開催が正式決定しました。夏季開催による酷暑の影響は当初からわかっていたはずですが、選手の健康を第一に考えれば、札幌の方がよいのは間違いありませんが、周到な準備を重ねてきた選手や関係者、東京都民が憤慨するのも当然でしょう。とはいえ、札幌は泥棒、辞退すべきとか、景観が悪いなどと言われたくはありません。

1972年冬季札幌オリンピックを記念して制作された本郷新の彫刻《花束》。豊平川に架かる五輪大橋の両側に建つ一対の作品です。世界から訪れた選手を、花束を持って歓迎したいという思いが込められています。頭部は半球体、胴体はマントを纏い三角錐、脚部は円筒形で、自然の中で構築物としての強さを感じさせます。マントの裾は同じ方向に傾斜し、川面をわたる風も感じられます。夏の木々の緑にも、冬の雪の白さにも映えるように、ブロンズの上に純金箔を三度重ねて金色に輝かせています。

この花束を持った二人の少女は、訪れる人を温かく迎え、札幌オリンピックを永く人々の記憶にとどめてくれます。花束は人と人が向き合い、生まれる調和や平和の象徴なのかもしれません。東京オリンピックでのマラソンが札幌で開催されることにより、新たな調和が生まれ、札幌がまた世界の人々の記憶に残っていくことを願います。

「涼しいところというなら北方領土でやったらどうか」と発言してひんしゅく輿^{ひんしゅく}を買った人がいました。札幌市は2030年冬季オリンピック招致の準備を進めています。地球温暖化で雪不足が懸念される時代。いつその



大通公園のモニュメント彫刻

寄贈者も設置時の思いを新たに

彫刻美術館友の会会長

橋本信夫

札幌の中心部、大通公園は市民の逍遙地として豊かな木立と色とりどりの花壇が整備された憩いの場となっている。ここには著名な彫刻家の手になる見応えのある彫刻も数多く設置され、野外彫刻庭園の趣もある。

公園には11体のブロンズ彫刻があり、ほとんどは1950年後半から1980年初頭にかけて各団体の記念事業として制作、設置されたもので、寄贈を受けた市がその後の維持管理を行っている。

寄贈された彫刻の中でも《牧童》、《開拓母の像》と《漁民の像》の3体は北海道の農業や漁業団体が母体となり、北海道開拓や産業振興に貢献した農漁民を称えるために作られたモニュメント彫刻で、しかも制作費は道内各地の大勢の農民や漁民の寄付によって賄われていた。

《牧童》は終戦後の大通公園に建立された最初の彫刻で、北海道酪農関係者が牛乳生産100万石突破を記念して設置した。《開拓母の像》は、全道農協婦人部連絡協議会が創立十周年を記念して制作、設置。碑文には「熊笹の眩野を拓きこの郷(さと)に愛と富とを満たしてくれた母たちの限りない功を讃えて」とある。さらに、《漁民の像》

は北海道漁協婦人部連絡協議会の創立10周年と北海道100年を記念して設置された。網を引く二人の漁師とかごを持つ母子の姿で漁民一家の浜辺の様子を伝えている。

このほか、《泉の像》《花の母子像》《湖風》《ホーレス・ケプロン之像》《黒田清隆之像》《石川啄木歌碑》などいずれもしかるべき団体が市に寄贈したものばかりである。

これらの大半は北海道の厳しい自然環境下に置かれてすでに半世紀、錆や破損なども目立ってきたことから経年劣化対策や安全問題が今後の重要な課題となっている。

一方、これらが設置、寄贈した団体にとっても極めて重要なモニュメントだったにも関わらず、その後、設置理由が語られることもなく、いたずらに放置され、現在、全道の農漁民でこれらの貴重な芸術作品の存在を知るものはほとんどいない。

友の会では2000年頃から「街なかの美を守ろう」のスローガンのもと、毎年これら彫刻の調査や清掃を行い、貴重な文化遺産を後世へ引き継ぐべく、ささやかな経験を重ねてきた。

今年は大通公園を会場にオリンピックのマラソン競技が行われ、内外から大勢の客を迎える。友の会はこれら彫刻の清掃、保

全やガイドに精一杯努め、来訪者のおもてなしをと考えている。できればこの際、設置団体と共に彫刻に触れ、本道開拓の歴史を学びながらモニュメント像に託した関係者の思いを世代を超えて語り継げるようにしたいと願っている。

座談会

友の会活動にフレッシュな力求めて
若者向けの情報発信に工夫を



会報「いずみ」69号(前号)で入会5年の川西優里奈さんが「もっと若者世代への発信を」と訴えた寄稿がきっかけとなり、今後の友の会活動への指針を求めて3人のヤング会員に集まってもらった。司会は奥井登代事務局長が務めた。
(構成、文責 大内 和)

出席者(写真左から)

- 川 西 優里奈さん(22) 北海学園大3年
- 日下部 明佳さん(24) 専門学校生
- 太 田 雅人さん(33) クリエーター

司 会：奥井登代友の会事務局長(左手前)
会 場 2019年11月30日 札幌・豊平館

司 会 今日はお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。ご存知とは思いますが、友の会会員の年齢層はまさに「高齢者」の集まり。そんな中で、「もっと若い人たちの思いを聞いてみたら」という声が上がって、この座談会企画が持ち上がりました。大いに若い人たちのアドバイスを受けて年寄りグループも頑張りたいと思いますのでいろいろ教えてください。まず、みなさんが友の会に入ったきっかけから教えてください。



川 西 高校生の時、美術の先生から勧められて大通公園のケプロン像と黒田清隆像の清掃に参加したのが初めてでした。彫刻の清掃を見て、「大変だなあ」と感じました。みんなに可愛がられて気が付いたら会員になっていました。

日下部 僕の場合は情報専門の学校に通って

たこともあり、エクセルを使って彫刻のデータづくりに苦戦している祖父(橋本信夫会長)を見て手助けする形で自然に会の活動に加わるようになりました。

太 田 多少アートに興味があってインターネットなどで彫刻を調べているうちに友の会のことが出てきて、アートの地図づくりに参加したら面白いだろうなということで仲間入りしました。司 会 実際に友の会に入り、彫刻と接するようになって変わったことはありますか。

川 西 通学路が大通公園に近かったせいもあり、意外に彫刻が多いなと改めて思いました。中でも汚れている彫刻によく目が行くようになりました。



日下部 これだけ彫刻があると思っていなかったのが札幌にしかない観光資源としてもっと使

える可能性があるのではと思いました。外国人観光客にも彫刻を使ったツアーを組むなどもっと

方法があるのではないのでしょうか。

特集

太田 アートは見るだけでなく実際に触って見えてくるものがあるのだと気づきました。形状的な部分で普段見えていない部分や作者がこんなところまで気を遣って作っているのかなど、見えていないものが見えてくるということもあり、彫刻を意識的に見るようになりましてね。特に街なかの彫刻で季節ごとに印象が変わるものもあり、見て楽しくなった。



司会 太田さんは交友関係も広く、清掃作業に視覚障害の方を連れて来られて、友の会としても活動が豊かになったというか幅が広がったという印象があります。

太田 美術鑑賞は障害のある人と一緒に作品を見て意見を交わすと違った立場、目線で作品を見ることができるので自分一人で見ているのと違った見方ができます。障害のある方と一緒に清掃活動をするようになって変わったなと思うことがあります。解説の仕方が丁寧になりました。「男性の像ですが、腰かけています」、「にっこりした表情をしています」など見えない人にも具体的にわかりやすくなったと感じました。

司会 友の会では今、道内の彫刻を網羅したデジタル彫刻美術館の構想を進めています。コンピューターを駆使する作業なのですが、私たちにはなかなか難しく、日下部さんたちに手伝ってもらっている状況ですね。会のこうした状況をどのように見えていますか。

日下部 今の友の会の情報環境を見ると会員の間にかなり格差があって伝達がローカルな面でしかつながらないように思います。ほとんどがメールとメールのやり取りですが、これでは若い人がなかなか入り込めない。彫刻に興味のある

人のために活動を日常的に常時発信するツイッターなどを利用して、もっと幅広く情報を流せる仕組みを取り入れるべきでしょう。友の会のホームページが故障したことがありましたが、そういった情報を SNS（注）などで即座に伝えるなど、「広報アカウント」といいますが、そうしたシステムが必要ですね。

太田 友の会にもホームページがあって清掃活動などの記事がよく更新されていますが、会の中での連絡手段だけにとどまり、活動の生の情報が外に出ていないように思います。もっと SNS を利用したらいいのではないかと。

日下部 情報の拡散力ではフェイスブック、インスタグラムなどありますが、ツイッターの方が高いのでインスタグラムと組み合わせた情報発信が有効かも知れません。



司会 若い人たちをもっと取り込みたいと、学校などに呼び掛けて清掃ボランティアへの参加を募ったこともあります。

川西 私も清掃ボランティアに参加し、大学受験の面接で体験を話したところとても効果があったように思いました。就活にも利用しました。

日下部 学生の中にはボランティア活動の実績を就職活動に利用しようとする人もいるので、ボランティア活動をしたことを証明できればそうした人たちを巻き込むこともできると思います。

太田 いずれにしても、社会人として言えば会の活動は出来れば週末、休日を多くしてもらえればもっと参加しやすくなりますね。

司会 私たちももっと情報社会にマッチした行動を起こせるように勉強が必要ですね。ありがとうございました。

(注) SNS はソーシャル・ネットワーク・サービスの略。

会員制で交流するフェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ラインなどがある。

友の会主催「秋の芸術鑑賞バスツアー」

「飛生芸術祭 2019」で若いアーティストと交流

苫小牧千人同心、島松駅通所なども見学

友の会恒例のバスツアーが秋晴れに恵まれた9月9日に行われ、一般参加を含め45人が彫刻家・國松希根太さんが主宰する胆振管内白老町の「飛生芸術祭 2019」の見学など胆振の芸術鑑賞を楽しんだ。

一行は白老町竹浦の廃校を利用した「飛生アートコミュニティー」で開催中の芸術祭で道内を中心に活躍する若い芸術家の息吹に触れたあと、千人同心像の鑑賞、馬のテーマパーク「ノーザンホースパーク」などを訪れた。参加者の山中和美さん、遠見潤子さんに感想を寄せてもらった。



若い芸術家たちの息吹に酔う

山中 和美

芸術祭の主催者の一人、國松希根太さんのガイドで廃校した木造小学校を活用したギャラリーと周囲に続く森に配置された作品の数々を見る。好きな画家である奈良美智さんの作品も展示されていてテンションが上がった。ご本人が現場にいらしたことを後で聞き、軽いショック。

飛生の森に点々と配置された作品は夜間、ライトアップされるという。月明りとのコラボはさぞかし幻想的な空間に違いない。キャンプ参加者にはもってこいのロケーションである。

芸術家たちの自在なアートが古い校舎を包み込み、背景へと続く飛生の森には木々と融合した作品が随所に展開する。素朴さとノスタルジーであり、道内で活躍する若い芸術家たちの息吹に満ちた空間を感じた。

廃校校舎の壁画に圧倒されて

遠見 潤子

視覚障害者であり、ひざも悪く外出は車ばかりの私を誘っていただき、飛生のバスツアーに参加しました。

飛生で強く印象に残ったのは校舎の壁全体に描かれた壁画でした。絵具は様々な土地から集めた土を利用したとのこと。自然を生かした土だけの色合いの良さと、壁全体を使うダイナミックな絵の中に小さなネズミを見つけ、作家の細やかさを感じました。

敷地の森には年々長くなるという根曲がり竹のトンネル。廃校をアトリエにしながら希根太さんが子供たちと作り上げた作品、協力者と作ったピザ窯などを見て、創作活動だけでなく他の芸術家の方たちとの交流、飛生芸術祭などの継続的な活動は訪問者にも心地良い空間でありました。

大通公園を真っ赤に染めて ホテル「レッドプラネット札幌」と彫刻清掃

ホテル「レッドプラネット札幌」の従業員らが昨年9月21日、友の会会員の指導で大通公園の彫刻清掃を行った。

これは同ホテルが推進して



いるCSR活動の一環で、利益を求めだけでなく、社会の役に立つ活動を目指そうという目標の実践。

この日は従業員ら50人ほどがトレードマークの真っ赤なジャンパーを



着用して彫刻清掃に取り組んだ。全体を6グループに分け、それぞれに友の会の会員がリーダーとなり、担当した彫刻の前で作品解説をした後、清掃方法を指導して作業に取り掛かった。

清掃したのは《泉の像》《湖風》《牧童》《花の母子像》《開拓母の像》《石川啄木像》の6体。

中性洗剤を使ったブラッシングと水洗いをして汚れを落としましたが、事前に彫刻の制作、設置の由来などの説明を受けた後だけに彫刻への愛着も深まり、丁寧な作業ぶりで初めての経験に満足そうだった。

この日はちょうど札幌でラグビーのW杯開催中とあって大通公園にも外国人の姿が多く、真っ赤なジャンパーで彫刻清掃に取り組む一行を珍しそうに眺めていた。

石川さわ子札幌市議

彫刻保全で市の考え質す

彫刻清掃など友の会活動に理解を示している札幌市議の石川さわ子議員（市民ネットワーク北海道）が昨年10月の札幌市議会で市が管理する野外彫刻の保全活動対策で市側の考えをただした。友の会に送られてきた議事録からポイントを紹介する。



石川議員は野外彫刻保全対策について幅広く取り上げた中で一昨年秋の胆振東部地震による市内の野外彫刻の被害状況について質問、札幌市の有塚文化部長は市が管理する415点のうち78点に損傷があったことを認め、業務調査を実施していることを明らかにした。ま

た、今後、調査結果を管理台帳として集約するなど答弁した。

さらに、彫刻作品の補修、移設、撤去などには芸術性、技術の専門性などを考慮、専門家の助言を受けながら対処するとの方針を述べた。

道内彫刻全写真（仲野コレクション） 会報「いずみ」バックナンバー

彫刻美術館が一括保存へ

2002年の創刊以来、年4回の季刊で発行している会報「いずみ」のバックナンバーと元会員の故仲野三郎さんが撮影した彫刻写真のすべてが彫刻美術館へ移管されることになった。

「いずみ」は会の活動の記録として通巻70号。貴重な創刊号も残部が少なくなり、資料の散逸を防ぐ意味でも公共的な機関での保存体制が必要になってきた。

また、道内彫刻写真は故仲野さんが道内全市町村を歩き、約2500点もの全彫刻を写真に収めた貴重な記録。総計約7000枚に上るプリント写真がポケットアルバムに保存されている。

新年度をめどにこれら全資料を彫刻美術館へ移管することが昨年秋の美術館と友の会の話し合いで決まった。

事務局日誌

▼2019年9月1日＝中島中学彫刻清掃(中島公園)▼9日＝恒例バスツアー(苫小牧方面飛生芸術祭など)▼12日＝定例役員会(エルプラザ)▼17日＝定山溪地区彫刻調査、撮影▼18日＝石川さわ子市議が市議会で彫刻保全問題などで質疑、橋本会長ら傍聴(札幌市役所)▼22日＝中島中彫刻清掃の記事が道新掲載▼11月6日＝第1回彫刻学習会(エルプラザ)▼13日＝雑誌「ケア」鎌田編集長と打ち合わせ(エルプラザ)来年度の企画など▼30日＝会報70号用座談会(豊平館)

編集後記

▼今号は珍しく座談会を企画した。きっかけは座談会冒頭にある通りだが、約2時間に及ぶ内容の中から要所を取り出すのに苦労した▼話し合いの内容を録音、それを再生しながらの原稿起こし。出席した3人は気を使って専門的な言葉はなるべく使わなかったが、それでも理解するのに時間がかかることもあり、それこそ世代格差を感じることになった。3人の思いを十分カバーできただろうか。

(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いづみ」 No.70

2020年1月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いづみ」70号 目次

自作自選40 《男の顔》	鈴木吾郎	・・・	表紙
作者の言葉	・・・	・・・	2
宮の森の四季40「花束」	山下秀幸	・・・	2
風見鶏「彫刻寄贈者も設置時の思いを」	橋本信夫	・・・	3
座談会「フレッシュな力を求めて」	・・・	・・・	4～5
友の会ニュース「秋の芸術鑑賞バスツアー」	・・・	・・・	6
友の会ニュース	・・・	・・・	7
ホテルと共同で彫刻清掃/石川市議彫刻保全で質疑/会報など美術館へ移管			
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	・・・	・・・	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

本郷新と「無辜の民」

～2020年2月12日水

国や時代を問わず苦難を強いられる人々に心を寄せ、作品を制作した札幌生まれの彫刻家・本郷新。代表作「無辜の民」シリーズや野外彫刻のスケッチを展覧。

所蔵品展

2020年2月20日木～4月22日水

大通公園の《泉》の像や《わだつみのこえ》で知られる本郷新が手掛けたブロンズ彫刻やテラコッタ、木彫など、代表作から隠れた優品までを多数展示。

記念館

常設展「本郷新の歩みと芸術」

～2020年4月22日水

■図書・情報コーナー

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>